

NPO法人 LD・Dyslexiaセンターでは

主に読み書きに障がいのある方々*とそこご家族を対象に以下のように教育的・社会的サポートを行っています。

- 原因を詳しく調べる
- 対応のしかたに関するアドバイス
- 読み書きの練習
- 教育相談
- 教育機関、医療機関との連携

また、支援のための機能訓練法の開発や研究および啓蒙活動に関する事業を行い、障がい児・者と健常児・者がともに健全な社会生活を実現するために寄与することを目的としています。

*読み書きに障がいのある方とは以下のような方を指します

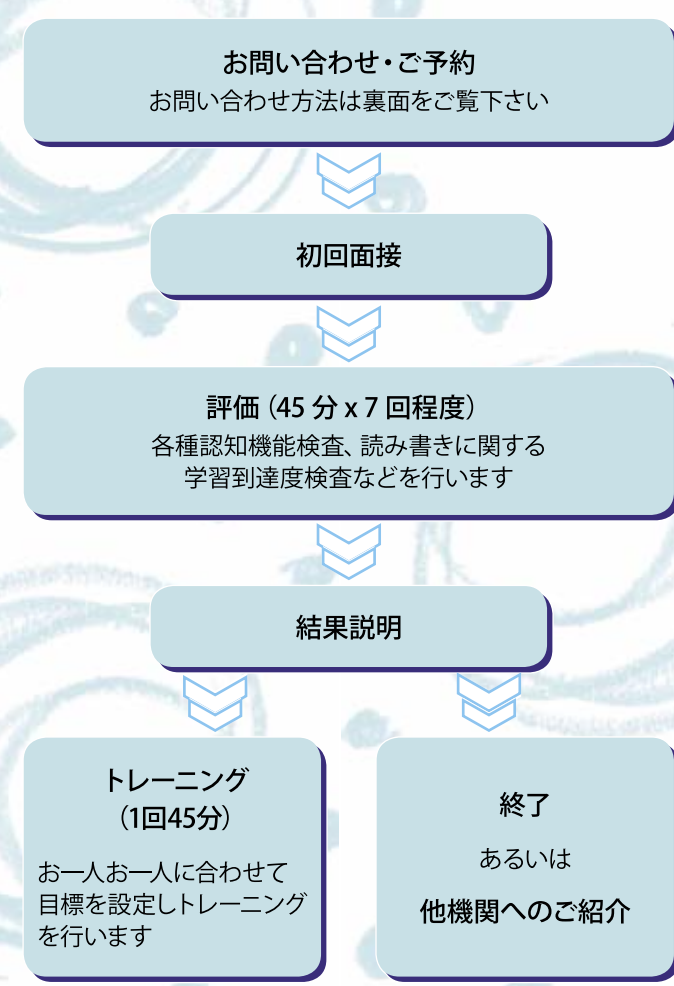
- 学習障がい (LD) の方
- 発達性Dyslexia (発達性読み書き障がい) の方
- 特異的言語障がい (言語発達のための遅れ) の方
- 小児失語症を中心とする高次脳機能障がいの方

NPO法人 LD・Dyslexiaセンターのあゆみ

1995年に、当時国立精神神経センター精神保健研究所の室長であった宇野が研究所にて無料での評価及び訓練を開始しました。2003年からまめの木クリニック (上林院長) に間借りし、2004年に現在の市川を拠点として法人化し、現在に至っています。

北は東北から南は九州まで、年齢は4、5歳から30歳代までの方が通所しています。紹介元は大学病院、国立病院、クリニック、教育委員会、障害児学級の先生方、言語聴覚士など、居住地、年齢、紹介元すべてにおいて多岐にわたっています。

ご相談の流れ



スタッフ

代表 宇野 彰

筑波大学大学院人間総合科学研究科
感性認知脳科学専攻 (障害科学系) 教授
博士 (医学)、言語聴覚士

副代表 春原 則子

目白大学保健医療学部 言語聴覚学科 教授
博士 (行動科学)、言語聴覚士

副代表 金子 真人

帝京平成大学健康メディカル学部 准教授
博士 (感覚矯正学)、臨床心理士、言語聴覚士

出版物

小学生の読み書きスクリーニング検査
—発達性読み書き障害 (発達性dyslexia) 検出のために—
著者: 宇野 彰、春原 則子、金子 真人, Taeko N.Wydell
インテルナ出版 (2006)



「発達性ディスレクシア(発達性読み書き障がい)」とは？

発達性ディスレクシアとは、全般的知能は正常であるにもかかわらず、文字の習得が困難な症状です。トム・クルーズがそうであることで有名です。英語圏での出現率は10%以上とされています。私たちの調査 (Uno et al. 2009) では、日本でも決して少なくないことがわかっています。読み書きの困難は学業全般に影響します。また、その困難さは大人になってからも続きます。発達性読み書き障がいの子どもたちは、周囲から「努力をしない」「怠けている」あるいは単に「勉強ができない」と誤解されることが多く傷ついています。また、努力してもできるようにならないため何事に対しても自信や意欲を失っていたり、自己評価が低くなってしまいうという深刻な問題を引き起こします。



どのように対応するのか？

はじめに、詳細な検査結果を基に能力の高さと弱さを把握して、強い認知能力を活用して弱さをカバーする方法を見出します。そのことによって読み書きの習得だけでなく、成功体験を積み重ねることを目指します。「人間としての自信を復活させること」を当センターの重要な役割と考えています。

面接のご予約

曜日 — 土・日・祝日

時間 — 9:00 ~ 17:15

＊面接は予約制です

＊個人のプライバシーは厳守します。

料金表

(2011.03.01現在)

初回	10,000円
2回目以降 評価／トレーニング／ 教育相談	5,000円／1回45分

※当日9時以降のキャンセルにつきましては、キャンセル料をいただきます。

お問い合わせ先

〒272-0033

千葉県市川市市川南3-1-1アプロード市川315号

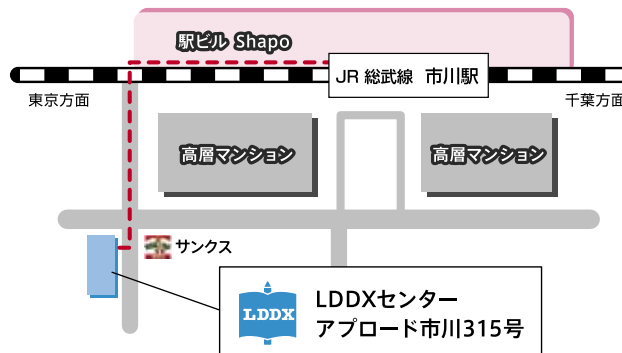
tel & fax: 047-326-5006

e-mail: LDDX2004-office@umin.net

※ 留守録の場合は、お名前、お電話番号を録音ください。
後日、折り返しで連絡致します。

交通アクセス

交通／JR 総武線 市川駅下車・徒歩3分



NPO法人

LD・Dyslexia

エルディ・ディスレクシア

Center

読み書き障がいに関する教育相談・トレーニング



<http://square.umin.ac.jp/LDDX/>